

TOKUYA TIMES

とくや
タイムズ

春風会

Now

<http://ito-tokuya.com/tokuya>

伊藤 とくや

Summer, 2010, vol.13



環境文化都市「豊橋」のまちづくりについて



第13号発行のご挨拶

地球や地域の環境問題に対し、より広い視点と 新たな決意で取り組み、「環境にやさしい」という気持ちを持って、日々の市民生活や産業活動が営まれるまちづくりを進めるとして、本市は環境にやさしく暮らすまちづくり「環境文化都市」を、まちづくりの基本的方向の一番に掲げて推進、その目指す姿としては、地球環境問題への対応や、循環型社会形成に向けた取り組みをすすめてきた。

平成21年度9月議会一般質問にて、私は「生物多様性条約第10回目締約国会議における環境文化都市、豊橋市の役割・期待について」を伺うなかで、最後に総括質問として、豊かな自然と市町村の界を越えた環境への取り組みが東三河を結束させるという観点から、「第5次総合計画が策定される中で、COP10を契機とし、環境文化都市豊橋の将来の姿はいかにあるべきか。」について佐原市長にお伺した。

市長答弁では『環境への配慮や取り組みといったものは、象徴的に言われる生物の多様性とかCO2の削減といった視点から論じるだけではなく、多面的に捉えなければならない。さまざまな分野にわたる横断的な行政課題であるとともに、土地利用や交通体系など、まちづくりの考え方に影響を与え得るもので、本市将来像の構成要素として、一層重要になっていくものと認識している。その具体的な取り組みについては、議員の提案された緑のカーテンのように、すぐにできるものはできるだけ早く取り組んでいくことはもちろんだが、全体像については、第5次総合計画策定作業を進める中で示していきたい』とご答弁いただいた。

平成22年度予算大綱では、『地球温暖化対策は急がなければならない課題。かけがえない地球を守り、少しでもよい環境を次の世代に渡すのは、私たちの責務。■行動で示すため、私たちができることを地域で考え、子どもたちの未来のため、できることから積極的に行動する■省資源、省エネルギーを推進、「希望に溢れた持続可能なまちづくり」に取り組む■過度にマイカーに依存しないため公共交通の利用推進■電動アシスト自転車購入費助成■エコファミリー認定。■市民意識の向上と温室効果ガス排出抑制。■「エコアクションプラン」に基づく、「エコ通勤」、省エネ機器導入■「COP10」に合わせ、地域で取り組む環境保全事業や 葦毛湿原、汐川干潟を始めとする東三河のすばらしい自然環境を全国に発信、環境都市としてアピールをしていく。』としていた。

そこで、平成22年3月に「豊橋市地球温暖化対策地域推進計画」を策定し、COP10を間近に控えるとともに、第5次総合計画の素案がまとまりつつある現状を踏まえ以下を伺う。

問題【1】 環境文化都市づくりについて

(ア) 「予算大綱を含めた『環境』の位置づけ」について

(ア)答 環境部長 予算大綱は市長の熱い思い。地球温暖化、気候変動、生物多様性などが注目を浴びているが、循環型社会や省エネの取り組みの推進が大きなベース。地球温暖化対策では、行政が率先して取り組むことで、市民・事業者理解をいただき地域が一体となって進めたい。

(イ) 「全庁を挙げた省エネの『見える化』など、エコマネージメント」について

(イ)答 環境部長 ISO14001認証取得など環境マネージメントを進めてきた。「見える化」の効果は認識しており、手法を研究し、可能な限り進め、効果的に省エネルギーを推進したい。

(イ)2 回目 電力計測ユニットを使った基本料金を上げないデマンド・コントロールや、また照明器具のLED化など、具体的な取り組み、エコマネージメントの認識と対応について伺う。

(イ)2 回目答 市庁舎は、大きな変動要因となる空調設備はガスを使用しているが、資源化センターや市民病院などでは電力のモニタリングシステムを導入し、デマンド・コントロールを行っている。省エネ法の改正を含めLED化など省エネルギーを推進したい。

(ウ) 「学校での環境についての教育(ソフト面)・設備(ハード面)」について

(ウ)答 教育長 太陽光発電設備、緑のカーテン、ピオトープ、木の机・椅子などハード面の整備を進めている。これを機に、「豊橋版の小中一貫環境教育カリキュラム」を作成し、小中9年間を通してハード・ソフト両面から環境教育を推進、本年度より、章南・老津・杉山に研究委嘱しました。

(ウ)2 回目 「環境教育」の理想と展望についての考えは?

(ウ)2 回目答 環境教育はまさに人づくりの営み。身の回りの自然や事象に優しく関わり、その学びを地域社会に主体的に還元していく子どもの育成を理想としている。

(エ) 「環境技術を活かした産業振興」について

(エ)答 産業部長 環境を産業から捉えると、生産過程・事業活動で、環境負荷の低減が課題である一方、太陽光利用、バイオマス資源活用などは成長分野。「食農産業クラスター推進事業」では、産学官や異業種間連携を活かし環境負荷を低減させる新産業を創出したい。

(エ)2 回目 環境技術を活かした新産業に取り組む素地は、産学官ともにそろっている。そうした環境技術を活かした『産業創出のため、市としてどのような対応をしていくのかについて』を伺う。

(エ)2 回目答 環境負荷低減のための施策や技術導入をする企業を輩出させ、積極的に技術開発支援を継続的にやりたい。

(オ) 「環境に優しい都市計画」について

(オ)答 都市計画部長 都市構造は、人口や機能の集積が高い市街地を公共交通ははじめ便利な移動手段でつなぎ、自然環境は、郊外では農地や自然の保全、市街地内では緑化の推進が必要と考えます。

(オ)2 回目 コンパクトシティは理想形だが、具体的にどのように?

(オ)2 回目答 都市機能の集積を高めるため、豊橋駅周辺、主要鉄道駅やバス停などの周辺地域を拠点として位置づけ、商業、金融、医療、行政など都市機能の集約を進める。

都市機能の分散立地や虫食いの拡散の抑制も必要である。

さらに、公共交通の利便性向上と、ネットワーク化を目指します。



【2】 間近に迫った COP10 の活かし方の認識と対応について

【ア】『現在の』認識と対応について

【ア】答 部長 本市は、東三河の優れた自然や地域資源を内外にPRする絶好の機会。「豊橋・東三河COP10サポート事業実行委員会」を設置し、COP10が開催される10月を中心に、民間の取組みも含めた生物多様性の保全に資する様々な事業を積極的に展開し、地域の情報発信に努めたい。

【ア】2 回目 「環境」をテーマとしたシティ・プロモーションである『豊橋・東三河COP10サポート事業実行委員会』の事業と、今後について伺う？

【ア】2 回目答 「生物多様性交流フェア(名古屋市白鳥)」、「市町村参加事業(愛・地球博記念公園)」へ出展、「豊橋総合動植物公園で学ぶ生物多様性(マンモス骨格標本の展示)」はじめ、他団体と共催した「自然観察会」、「愛知県指定天然記念物・葦毛湿原展(美術博物館)」、「東三河生物多様性バスツアー(東三河自然環境ネット)」などを予定、豊橋・東三河の優れた自然環境の浸透に努めたい。

【イ】『学校教育への反映としての認識と対応』について

【イ】答 部長 COP10を契機に環境教育をさらに浸透するには、指導者自身の意識や指導力を高めることが重要。教員研修体系の中に環境教育研修を位置づけていき、学校では、それぞれ地域の特性を生かした特色ある環境教育の充実を図りたい。

【イ】2 回目

【イ】2 回目答 身近な地域素材と活動体験を用意し、それを地球規模の問題へとつなげていく教師の意識や指導力が不可欠。地域の自然や環境に目を向け、ふるさとの未来を自分たちの手でつくり上げていこうとする子どもたちを育成したい。

【ウ】『生涯学習のなかの学校教育を除いた社会教育』について

【ウ】答 教育長 市内3大学との連携講座や、530運動への参加など、市民一人一人がより身近な問題としてとらえ、地域環境の保全につなげていきたいと考えている。

【エ】『外来生物対策への認識と対応』について

【エ】答 部長 『外来生物法』の規制により、輸入、飼養・栽培、譲渡・販売、野外へ放つことなどは原則禁止だが、法の施行前にペットや観賞用として飼養・栽培されている動植物が、一部のマナー・モラルの欠如により、野外へ放たれる問題は十分承知している。

『入れない』『捨てない』『広げない』の外来生物予防三原則の啓発・PRをすすめ、情報を得た場合には、国・県へ連絡する中で、適切な対応を図りたい。

『おもいやり』や『感謝の気持ち』をもった子どもたちが世界を動かした

大人は私たちに、世のなかでどうふるまうかを教えてください。

たとえば、争いをしないこと、話しあい解決すること

他人を尊重すること

ちらかしたら自分でかたづけること

ほかの生き物をむやみに傷つけないこと

分かちあうこと、そして欲ばらないこと

ならばなぜ、あなたがたは、私たちにするなということをしているんですか。

セヴァン・スズキさん(12歳)のスピーチ/リオ・サミット 1992年

【3】 環境行政の広域連携について

環境への取り組みは周辺の自治体に波及する。そこで・・・

【ア】東三河の環境行政の連携についての認識と対応について

【イ】 本市における越境環境汚染についての認識と対応について伺う。

【ア】【イ】答 環境部長 本市では、東三河5市に加え、隣接する湖西市や北設楽郡の町村を含めた『東三河環境行政連絡協議会』を設置すると共に、愛知県が主催する『東三河地区環境行政連絡協議会・東三河地域水循環再生地域協議会』の会員として、定期的に情報交換を行い、環境行政の円滑な推進に努め対応しており、水環境・大気環境などについて連絡を密にした対応を図っています。

2 回目 豊かな自然と市町村の界を越えた環境への取り組みが東三河を結束させるという観点から広域的に信頼される環境行政について

2 回目 答 市町村の特殊性による特異的な課題、優先的な取り組みもあるが、この地域を持続的に発展させていく為にも、東三河及び周辺地域における環境の保全が必要。

広域的連携に関する会議や協議会を活用する中で、関係自治体と連携し、情報を共有し、同じ方向性を以って、効果的な環境行政に努める事が重要。

おもい 本市の信頼を回復するためにも、内部で調査するよりも、喜んで外部の査察を受け入れ、公開することが必要ではないか。広域的に信頼される環境行政とは「担雪埋井」であるが故に、「信頼」が一番大切、本市の真価が問われる。東三河のリーダーとして大いに期待する。

総括質問 「環境文化都市宣言」と「豊橋のまちづくり」について

環境文化都市宣言と、安易な環境の皮をかぶった経済対策と真の持続的発展可能な社会を目指す環境文化都市「豊橋」のまちづくりについて！

答 環境部長 環境に間連する都市宣言については、東京都板橋区、長崎市、鹿児島市などに先例がある。本市における都市宣言は、「平和・交流・共生の都市宣言」が唯一だが、「恵み豊かな環境を創造し、将来の世代に継承していく」という理念を前文に持つ環境基本条例や環境基本計画がある。都市宣言の意義・効果を勉強し、今後とも「環境」は、まちづくりの基本的方向・大きな柱として取り組んで行く。

おもい 1922年アインシュタインは日本を訪れこの様に述べている。

「日本では、自然と人間は一体化しているように見える。この国に由来するすべてのものは、愛らしく、朗らかであり、自然を通じてあたえられたものと密接に結びついている。」さらに警告を発している。「たしかに日本人は、西洋の知的業績に感嘆し、成功と大きな理想主義を掲げて、科学に飛び込んでいる。だがそのような場合、西洋と出会う以前に日本人が本来もっていた、生活の芸術化、個人に必要な謙虚さと質素さ、日本人の純粋で静かな心、それらのすべてを純粋に保って忘れずにいて欲しい。」

市長答弁のお時間をつくれませんでした。本市の未来や希望「豊橋市環境文化都市宣言」が近い将来実現し、「真の持続的発展可能な豊橋」といえる環境文化都市「豊橋」のまちづくりに心から期待します。

“春風会”便り

私たち「春風会」の議会改革は、まずは「議会の見える化」から。ティーズのデジタル化を見据えた本会議一般質問の全中継、さらに、いつでも見られるインターネットでのオンデマンド配信。予算・決算質疑は総括質疑方式から(わかりやすく・問題を突きやすい)一問一答方式へ変更しネット配信するなど…。市政の「スピードアップと透明性の確保」に風を吹かせます。

市政報告会のご案内

8月12日(木) 18時30分より

松葉町2丁目カリオンビルにて開催します。

6月議会一般質問・補正予算はじめ、参議院選の結果と本市の影響などがテーマです。

市政報告会へ是非ぜひお越し下さい！

発行

伊藤とくや事務所

豊橋市松葉町 3-70

FAX : 0532-56-5521

TEL : 0532-53-4556

bbito@mx1.tees.ne.jp

携帯: 090-3855-9696